

弔詞

本日茲に揖斐郡遺族連合会
主催のもとに、戦病歿者慰霊祭を
執行せらるゝに方りまして、謹みて
岐阜県遺族連合会を代表して弔詞
を述べます

御英霊諸士は我々国民の身替
りなり遠く日清 日露 次て満州
シベリヤ近くは日米大戦争に参
加せられ力戦奮闘或は病魔に
侵され、或は戦歿或は捕虜の身
となり獄中に呻吟され終に果^{はか}
なき最後を遂げられたのであり
国民等しく感謝致していたので
ありますが、昭和二十年八月以降は
敗戦国として 立場上心の中では
変らざる感謝の誠を捧げつゝも
それを充分御英霊諸士にお伝
えすることが叶はなかつたのであり
ます、所が今や漸く講和条約
の締結を見やがて独立国として
世界平和に貢献し得る明い
希望を持ち得るに至り、茲に
御英霊諸士の慰霊の祭典を
盛大に行い得ます次第となりま
したことは 我々の深く喜に耐え
ない所であります、今次の戦争に
よる尊い御英霊は一八五万の多
きにあり本県でも五万を下らない
と申のでこの尊い生命に対し

その御遺族に対し何とも申上よ
うなく只管御慰霊を禱る
のみであります、吾等連合会に
おきましては御英霊の御遺族を
正しく御守り致しますことが諸
士に対する慰霊の道であると信じ
これら御遺族に対し誠心を傾け
関係方面とも力を合せて物心両面
の御助力を致している次第であ
ります 本日は揖斐郡遺族会
主催を以て慰霊祭を執行せら
るゝに方り感慨無量こゝにひざ
まづいて清酌衆庶して御慰霊
申上ます
希くは亨けられんことを

昭和二十七年四月七日

岐阜県遺族連合会長尾関廣右